

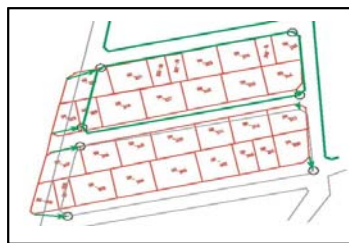
登記所備付地図作成作業について

仙台法務局

仙台市青葉区折立地区は、東日本大震災により、宅地が滑動・崩落し、建物が倒壊するなどの大きな被害が生じました。



復旧工事が行われましたが、登記所に備え付けられている図面と現況が相違し、境界が不明確となってしまったため、住宅の再建やまちづくりに支障が生じ、復興の遅れにもつながりかねない状況となりました。



(境界のズレのイメージです。)

そこで、仙台法務局は、登記所備付地図を作成する必要性が高いものと判断し、作業を実施することとしました。

作業は、法務局の資料のほか、自治体が保有する資料の提供なども受け、現地において、どこが境界なのかを探索し、土地の所有者に確認をしていただくものです。

また、復興を加速させるため、工事完了後、短期間に作業を完了させる必要がありました。

しかし、震災の影響により、土地が全体的に移動している上、崩落した土地と崩落しなかった土地が混在するため、震災前の資料を基に境界を探索するだけでは、境界の位置を特定することができないところもありました。





境界の位置の特定が困難なところについては、震災の影響により土地の境界が移動することがあり得ることを考慮し、境界を示す構造物の位置や土地の所有者の御意見を参考にし、登記官の知識と経験に基づいて境界の位置を示し、土地の所有者の確認の上、特定しました。



折立地区においては、宅地所有者全員の同意を得て、全ての区画についての境界が明確となり、それを確認することができる図面が法務局に備え付けられたことにより、次々と住宅の再建がされ、また、土地の売買等が円滑に行われるようになりました。



作業実施地区 仙台市青葉区折立五丁目の一部
作業対象面積 0.02平方キロメートル
作業対象筆数 109筆